

平成21年度教育委員会事務点検評価(平成20年度実施事務事業)評価表

1 事務事業の基本事項

		整理番号	6
事務事業の名称	公民館講座等運営事業	担当部課	教育委員会 生涯学習部 中央公民館
		電話番号	04-2952-2230
実施期間	～		
総合振興計画における位置づけ	5章 人を育み文化を創造するまちをめざして	実施計画(H20～22)事業名	公民館講座等運営事業
	1節 生涯学習の振興		
	1項 生涯学習の推進	個別計画等の名称	
	2目 生涯学習の機会や場の拡充		
実施根拠	社会教育法、狭山市公民館条例		
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務+自治事務		
事業開始の背景等	平成18年12月に公布された改正教育基本法では、教育に関する基本理念として「生涯学習社会の実現」が新たに規程され、さらに社会教育法の中では、個人の要望と社会の要請に応えることが明記され、市民のニーズに関する事業だけでなく地域課題、生活課題などの社会の要請に関する事業の重要性が示された。		

2 事務事業の目的・内容

目的	公民館は、地域の課題の把握に努めその課題に係る学習の場を提供するとともに、さらに学んだ成果を地域に活かしていくことが求められている。このような中で「元気な狭山」の実現に向けて、行政と市民がともに考える。
対象	市民
活動内容	現代的課題や地域的課題を取り入れ、社会教育、生涯学習の拠点として特色ある事業を展開していく。
(下段)前年度の方向性に対する改善活動	(前年度方向性評価)
環境配慮	参加者に公共交通機関の利用や自転車・徒歩での来館をお願いしている。
実施形態	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 全部委託 <input type="checkbox"/> 一部委託 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 補助・負担 <input type="checkbox"/> その他()

3 事務事業の実施状況と成果

区分	指標名	区分	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	目標値の根拠・考え方
(実施動向指標)	事業開催数	目標値	回			3	3	事業計画による
		実績値				3		
	達成率			100.0%				
	達成率							
(成果指標)	参加者数	目標値	人			240		事業計画による
		実績値				204		
	達成率			85.0%				
	達成率							

4 事業費

		区分	単位	18年度	19年度	20年度	21年度
経費	直接費	予算額	千円			300	300
		決算額	千円	0	0	90	
	財源内訳	国県支出金	千円				
		その他特定財源	千円				
		一般財源	千円			90	
	人件費	従事職員数	人			0.10	
		人件費(従事職員数×平均給与)	千円	0	0	917	
		事業費計(直接費決算額+人件費)	千円	0	0	1,007	
効率性指標	指標名	利用者数	人			204	1単位当たりの経費
	単位コスト	利用者一人当たり	円			4,936	

5 事務事業の評価

項目	評価の視点	評価	評価理由
個別評価	必要性	4 前年度	社会教育、生涯学習の拠点である公民館で学習する意義や公民館の役割を再認識し、今後の社会教育のあり方を考えるきっかけとした。
	有効性	4 前年度	成果指標までには到達しなかったが、参加者の意識改革が図られ有効であった。
	効率性	4 前年度	質の良い講座を実施しても、参加者が少なくは効率も下がってしまうことから、PRに努め効率化を図る。
		< 5段階評価 > 5：極めて高い 4：高い 3：普通 2：低い 1：かなり低い	
今後の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 内容の見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 完了		
現代的事業に即したテーマを取上げた講座を実施していく。			

6 その他(学識経験者の意見等)

・市が主催する講座は、現代的課題に属するものが望まれる。その場合、NPO等との協力運営等、新たな運営方式も考えられる。 ・他事業との関連を考慮しつつ進めるべきであろう。地域課題の把握をしなければ、「現代的課題」そのままでは難しい。
--

